



ねごと暮らせば

僕は夜歩く。紺色の夜空のしたで、お月様と一緒に。



望めばどこまででもいけるけど、
あなたのそばが今は一番だから
空が白み始めたら帰路につくよ。



イタリア語回文

Autore, ero tua

「作者様、

私はあなたのものです」



英語回文

was it a cat I saw?

「私がみたのはねこだったの？」



チェスが終われば、
王様も歩兵も同じ箱に帰る



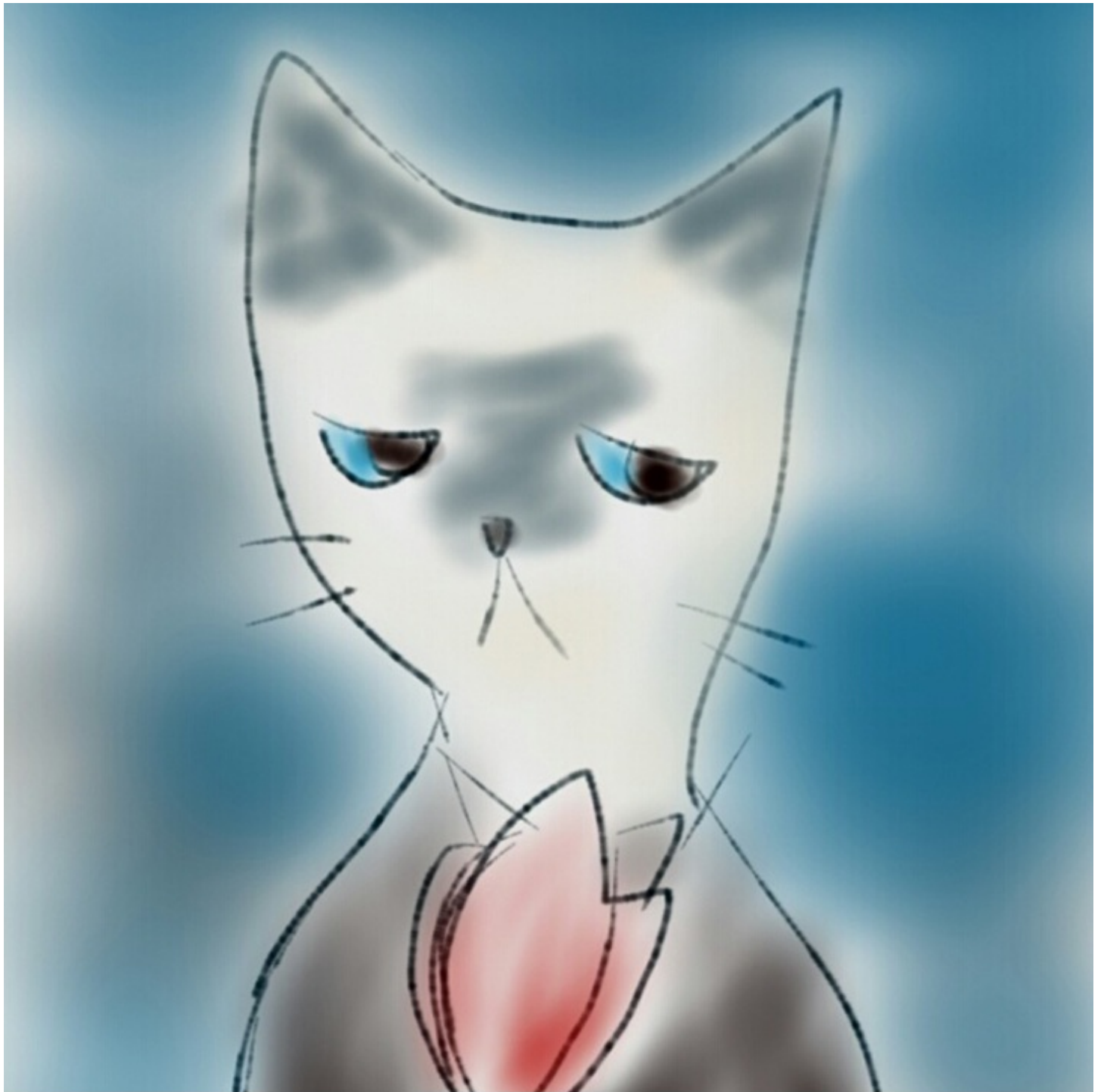
我が家の猫たち。

朝は苦手で、昼寝も好き。

外を散歩もするけれど、

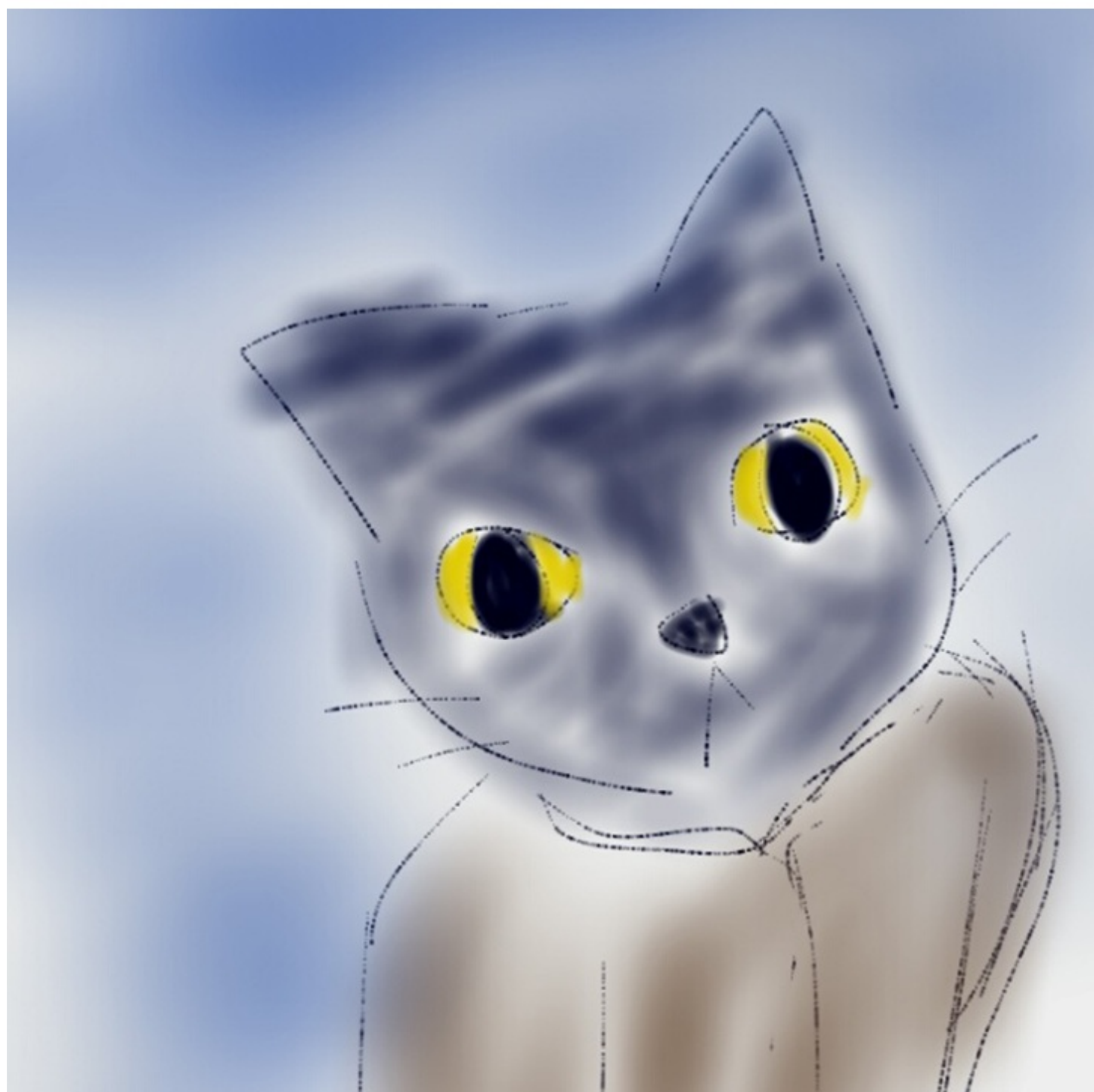
お家でも十分冒険できるらしいです。





誰が為に 泣きわめいたの
許すこと忘れることも生者の自由

鳥の名を指し示す君 もういない
あれが鳶かもわからないんだ



夢で会う、それくらいがちょうどいい
今の君などみたくもないから



さびしいと素直に言えばわがままで
会える理由をこねくり回す

笑います？あなたの口癖耳にして
会いたいなんて呟く私





ねこと暮らせば

<http://p.booklog.jp/book/85990>

著者：こいけ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/38a1db/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/85990>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/85990>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ